

令和4年度 第2回「甲府市中小企業・小規模企業振興推進委員会」議事録要旨

日 時 令和4年10月3日（月） 10時00分～11時30分

場 所 甲府市役所本庁舎7階 7-2会議室

出席委員 西久保浩二委員長、秋山育也委員、今井裕久委員、勝俣賢一委員、
河野嘉孝委員、下平浩一朗委員、濱田哲一委員、豊前貴子委員、
向山孝明委員、村松晴己委員

事務局 櫻林部長、依田商工振興室長、萩原商工課長、樋田商工課課長補佐、
矢崎商工課課長補佐、土屋中心市街地振興課係長、市川商工課主事

次 第

1 甲府市中小企業・小規模企業振興推進委員会

(1) 開会

(2) 報告

ア 意見書に対する報告について

(3) 議事

ア 甲府市商工業振興指針の改定について

イ その他

(4) 閉会

(2) 報 告

ア 意見書に対する報告について

資料「事業実施状況調査票（甲府市中小企業・小規模企業振興推進委員会
意見書）」の一部内容を訂正した箇所について、事務局から説明。

○委員からの意見等

（委員長）既に実施しているものと、まだ未対応のものについて関連団体との連携
の中で形にしてほしい。

（事務局）各担当課、関連団体と連携して行っていきたいと考えている。

(3) 議 事

ア 甲府市商工業振興指針の改定について

資料1「甲府市商工業振興指針の改定について」、資料2「甲府市商工業振興
指針の策定経過と位置づけ」、資料3「甲府市商工業振興指針の実施状況」、
資料4「（仮称）甲府市商工業振興指針」、資料5「施策の体系【事務局案】」
を事務局から説明。

(委員長) まずは、施策の柱について議論をしていきたい。施策の柱が5つだったが、事務局案では施策の柱が7つに変更になったということによいか。

(事務局) それで差し支えない。

(委員) 人材確保が企業全般において、問題となっていることから力をいれていくべきではないか。小中学校等を対象とした市内産業を知る機会の創出とあるが、どういう運営をしているのか。学生に中小企業を見学する機会を与えてほしい、地場産業を身近に感じてもらうことが必要ではないか。具体的な方法があるのであれば教えていただきたい。

(事務局) 具体的な内容についてはまだ決まっていないが、出張の講座や見学など検討をしている。

(委員) 指針を改定するのはいいが、実際に実施していかないといけないと考える。学生の反応もすごくいいので、実のある活動を行ってほしい。河口湖の学校の生徒に参加してもらう活動を山梨県中小企業家同友会でも行ったが、我々が思いもよらないような意見等が出てくるので、小さいころから地場産業を身近に感じることができるよう施策を検討してほしい。

(委員長) もっと就職直前の生徒にフォーカスを当てて、アプローチしていくことが必要ではないか。

(委員) 宝飾産業については、宝石美術専門学校があるが、半分の生徒が県外に出て行ってしまうので、もったいないと感じる。

(事務局) 雇用創生課の方でも雇用や人材確保など力を入れている。また、甲府商業高校にも企業の方に来ていただき、説明会をしていただいている。今後も市内の企業についても紹介するような機会や地元で就職してもらえるような機会を創出できるようにしていきたいと考えている。

(委員) ワイン産業についても、毎年小学校から見学の依頼が来ている。中学校高校でも、生徒たちが自主的に地場産業を学ぶプログラムがある。

(委員長) 来てくれた小学生が山梨で就職してもらえればいいが、なかなか難しい。仕事が楽しいのはわかるが、今の学生はワークライフバランスや楽しく働けるのかを見ているので、企業の魅力を発信していく必要がある。

(委員) 企業の考え方を発信していくことも必要だが、実行していくことが必要だ。

(委員長) 東京の大企業の方が楽で楽しいのではと考えている学生もいる。地元で

も楽しく職業人生を歩めるということを、企業が対応していくと同時に、就職直前期の学生にも伝えていくことが必要だ。15年間就職支援委員会をしているが、学生が変わってきており、地域で就職しようと考えている学生が増えている。

(委員) それを鑑みで、企業の魅力を発信し、実行していくことを継続的にやっていきたい。

(委員長) 施策の柱1について、継続していき、より実効性のある柱としていってほしい。

(委員) 具体的な取組について、「支援を行う」という内容のものが多いが、具体的に何をするのか。

(保委員長) 資金・補助金という形になるのか、人材派遣やセミナーなどあると思うが、どのような形で行うのか。

(事務局) 支援については、補助金やセミナーを想定している。

(委員長) どの形態が有効なのか、事務局の方で検討していただきたい。

(委員) 事業1-1の事業承継のところについて、後継者がいないため事業を辞めざるを得ない方が増えている。補助金というのはどれくらいの金額を出すことを想定しているのか。

(事務局) 事業承継を円滑に行えるように、取り組んでいる事業者に対して支援を検討している。金額については予算等の兼ね合いがあるので、検討している段階である。

(委員) コンサルティング料については費用が掛かるので、そういったところを支援していけばいいのではないかと。とても重要な話と思うので、是非実施してほしい。

(事務局) 県や他都市の状況を見て、内容は検討していきたい。

(委員) 事業自体がうまくいっているかないかで、性格が違うのではないかと。

(委員長) 利益がある程度ある事業者の事業承継の支援ということでよいか。

(事務局) それで差し支えない。

(委員) 2点確認したい。まず、仕事と子育ての両立について、事業I-5-(3)の女性に関する題材をテーマにしたセミナーを実施するとあるが、どういっ

た方に行く予定なのか。経営者に対するセミナーも大切だと思うが、女性に対して背中を押せるようなセミナーも実施していく必要がある。次に、新しい柱の中心市街地の活性化について、とても重要な柱と考えている。閉店する店も増えており、夜でもとても静かだ。郊外でイオンのようなワンストップでニーズが満たされているが、3年ぶりに行った七夕祭りにはとても多くの方が訪れていた。中心市街地に訪れるきっかけとなるようなイベントを行い、それに対して支援していくことが必要ではないか。

(委員) ハラスメントに問題になっているが、有料で経営者と社員でセミナーを受けるようにしている。市でもそういったセミナーを行う予定なのか。

(事務局) どういったセミナーを行うのかについては、人権男女参画課でもセミナーを開催しているので、そちらと連携しながら、今回出た意見も参考にして、内容については検討していきたい。

(委員) 職場環境づくりについては、ハラスメントのような問題が経営者側はすぐに気づくことができないので、市でそういったセミナーを実施してもらいたい。また先日、産業支援センターでも機密漏洩に関するセミナーが実施されていた。時代に合わせたセミナーの実施が必要と考える。

(委員長) 現場の意見を聞いて、セミナーの題材について決めていけばよいのではないか。

(事務局) ご意見をもとに取組の参考にしていきたい。

(委員) 施策の柱Ⅲに創業の促進について、市でも創業支援事業計画を策定していると思うが、その中でも特定創業になった方はメリットがいくつかあるため、特定創業を取得するために創業のセミナーや相談を受けたいという方が増えている。取組にセミナーの実施とあるが、市でも同様のセミナーを実施していくことなのか。甲府商工会議所でも、特定創業支援セミナーや個別の相談を利用したい方が増えており、対応しきれないところがある。創業意欲のある方たちの受け入れ先を増やすために、他の金融機関でも連携して行ってほしい。

また、事業承継について、後継者の候補がいるところは産業支援機構の引継ぎセンター等を利用していけばいいと思う。後継者がいないところについては、創業を希望している人たちとのマッチングができるように項目は離れているが、リンクさせるべきではないか。

(事務局) 創業支援に関しては、ここ1年ウィズコロナ・アフターコロナを見据えて、相談者が増えており、市の融資制度である女性おうえん資金も利用が増えてきている。特定創業支援セミナーについては、引き続き「山梨中央銀行」「甲府商工会議所」「やまなし産業支援機構」で実施していただきたいと思い、取組に入れている。実施する機関を増やすことについては、国から認定を受けて行っているため、

弾力的な運用が可能か確認する必要があるので、検討していきたい。

また、事業承継については創業とリンクするところがあると思うので、マッチングができるように検討したい。

(委員) 廃業の方も増えているが、つなげていくことも大事だが、新しい創業の方を育てていくことも大事なことである。

(委員) 地域の稼ぐ力を高めるために、若い人を育てていくことが必要である。公庫でも高校生を対象にして起業支援を行っている。小さいころから遊びを通して、金融の勉強や起業について知っていくことが必要であると考えます。

(委員) 施策の柱ⅣとⅤに対するお願いとして、ジュエリー産業が集積しているのは日本で甲府が唯一無二のエリアであるので、来訪してもらい、職人の方たちと触れ合うことで、唯一無二の甲府の魅力を観光と絡めてアピールして欲しい。是非、販路拡大とジュエリーツーリズムを進めて行ってほしい。例えば、台湾の方で地場のものを買って、帰国してからも消費するといういい流れを作っているケースがあるので、そういったことができるようにしてほしい。また、事業継承については、若い方たちにも山梨でも輸出に取り組んでいる企業があることを知ってもらいたいので、具体的にそういった取組を行ってほしい。

(委員長) この円安のビジネスチャンスを生かしていけるようにできればよいのではないかと。

(委員) 県内で上場している製造業の企業に聞いても人手不足と答えるところが多い。世界と競争している企業は県内にも数多くあり、一般の方が目にしないような産業機械を作っているところが多い。世界で高いシェアを持っている企業があることを知ってもらうため、県外在住で県内出身の学生とその親御さんに見学してもらうような施策を行う必要があるのではないかと。

(委員長) 学生はB to Cの企業はよく知っているが、B to Bの企業はほとんど知らない。株価でみると優良企業がたくさんあるということを感じさせるために、ストックウィークという日経主催の株式投資ゲームがある。しかし、経済経営を学んでいる学生でも、自分の就職先としての実感を持って知る機会が少ない。今は福利厚生を気にする学生が多く、B to Bの企業に目を向けることがない。今の学生はリクナビやマイナビに登録するところから、就活がスタートする。そこで自分の職業適性を診断した上で、スカウトのメール等が来るようになっているが、県内企業からはほとんどこない。彼らの就職活動を見て、どういった企業にアタックしようとしているのか、エントリーシートを出そうとしているのか調べて、県内企業を周知できるようにしていくほうがいいのではないかと。

(委員) 人材について、若者や女性に対する施策が多く、高齢者を戦力とした施策がない。今後は高齢者も戦力とした施策も考えていくべきではないかと。

(委員長) 高齢者雇用が努力義務化され、かなり人材の厚みとしてはノウハウを持った人になるので、とても価値のある人材ではないか。元気な高齢者に働いてもらうことについて、何か議論に上がっていることはあるか。

(事務局) 高齢者人材・雇用について、新しい視点として検討していきたい。

(委員長) 具体的な取組に是非追加をお願いしたい。

(委員) 施策をやった効果を測定し、PRしていくことが必要でないか。

(委員長) 毎回事業所数の変化をデータとしてまとめておくことが、今回の施策の効果を測定することにつながるのではないか。個別の施策について検討するためにマクロのものでもよいので、現状のデータを見せてほしい。

(事務局) マクロ的なデータになるかと思うが、施策の効果の裏付けとして提示できるようにしていきたい。

(委員) 何名でこの施策を実施していくのか。

(事務局) 商工課は6名である。すでに実施している事業もあり、また他課と連携して行って行っているものもある。

(委員) 広くやろうとして施策を増やすと、中途半端になってしまうのではないか。やめていくものがあるのもいいのではないか。

(委員長) マンパワーや予算もあると思うので、時期に応じて重点的に行う施策があってもいいのではないか。有効な資金配分を行ってほしい。

(事務局) 最近はコロナ対策事業に重点を置いていた。既存の事業については内容拡充をし、新規事業については時世も踏まえて必要ではないかと思われるものを追加した。予算等も見た上で実施していきたいと考えている。

(委員長) スクラップアンドビルドで、やめる施策があってもいいのではないか。具体的な取組を増やすことで、取組が分散されていってしまうと思う。やめるというのは難しいと思うが、縮小していく形でもいいのではないか。

(事務局) 今の指針は10年サイクルになっている。次回以降に議論をしたいと思っているが、今後は短いサイクルでPDCA進行管理を行っていきたい。その中で、施策の取捨選択を行っていきたいと考える。

(委員長) 今回もらった意見をもとに、施策の内容についても検討していただきたい。

イ その他（今後の流れ）

事務局より、指針の改定に関するアンケート及び今後のスケジュールについて説明を行った。

（委員長） 以上で議事を終了します。ありがとうございました。

以 上